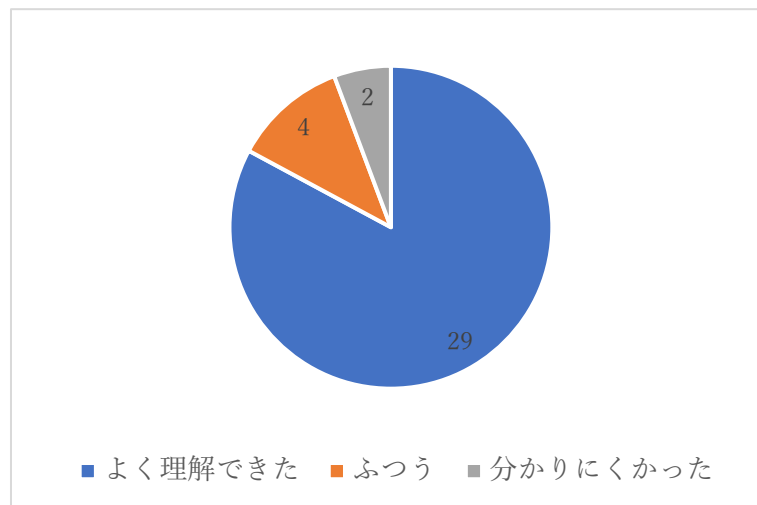


第1部 講演の部の内容はいかがでしたか？



第1部 講演の部のご感想をお聞かせください。

1. 肯定的な感想

- 講演は非常に分かりやすく、具体的な内容が理解しやすかった。
- 講師の先生の説明は図や動画を交えており、非常に効果的だった。
- リハビリテーションのやり方や効果について具体的な情報を得られ、自分で体を動かすことの重要性が理解できた。

2. 新しい知識の獲得

- がん患者に対する予防的リハビリテーションについての新しい考え方を知り、重要性を理解した。
- リハビリテーションの段階（診断直後から終末期まで）ごとに必要なアプローチがあることを知った。

3. 課題や問題提起

- リハビリテーションができる期間が限られている現状や、外来では難しい状況があることに関する認識。
- 現行の制度や施設の不足、高い費用に対する懸念。一般のジムやトレーナーを活用した運動療法の普及に期待。

4. 終末期に関する感想

- 終末期のリハビリに関する話題が触れられ、特にがん患者にはシビアな情報であるため理解が難しい部分もある。

5. 希望や提案

- もっとリハビリの効果や効能についての解説があれば良いとの希望が多く見られた。
- 予防的リハビリについてもっと詳しく知りたいという意見。
- オンラインでの実施が可能な施設や手段についての期待。

6. 講師への感想

- 講師の先生の若さに驚きつつも、説明が分かりやすかったという意見。

第2部『一緒に動いてみましょう！リハビリテーション患者体験』の内容はいかがでしたか？



第2部『一緒に動いてみましょう！リハビリテーション患者体験』のご感想をお聞かせください。

1. ポジティブな感想

- リハビリテーションの実演は非常に分かりやすかった。
- 患者さんの実際の動作を見ることで、リハビリテーションの効果がリアルに理解できた。

2. 患者参加への感謝

- 休日にもかかわらず、患者さんのご協力に感謝。
- 患者様本人の意見を聞くことができ、多くの学びがあった。

3. 具体的な学び

- 実際に患者さんが動作することで、気を付けるべき点が理解できた。
- 体験デモによって、リハビリテーションの実際の進行がよく理解できた。

4. 個別対応と技術の重要性

- 個別対応が施術者の技術に大きく依存しているとの意見。
- 実際の患者さんの動作で、施術者の技術の大切さが理解された。

5. 患者の声への共感

- 患者さんのリアルな声や経験を共感し、希望が持てたとの感想。
- 家族や友人の視点からもリハビリテーションが参考になるとの意見。

6. 実際の場面での理解

- 実際の場所での実演が良かったとの意見。
- 体験デモを通じて、具体的な状況におけるリハビリテーションが理解された。

7. 期待と提案

- より広い範囲の患者さんの動作やリハビリに関する実演を期待する声。

2023年11月26日（日）オンライン公開講座

「あなたを支えます がんリハビリテーション ～いっしょに動いてみましょう！～」

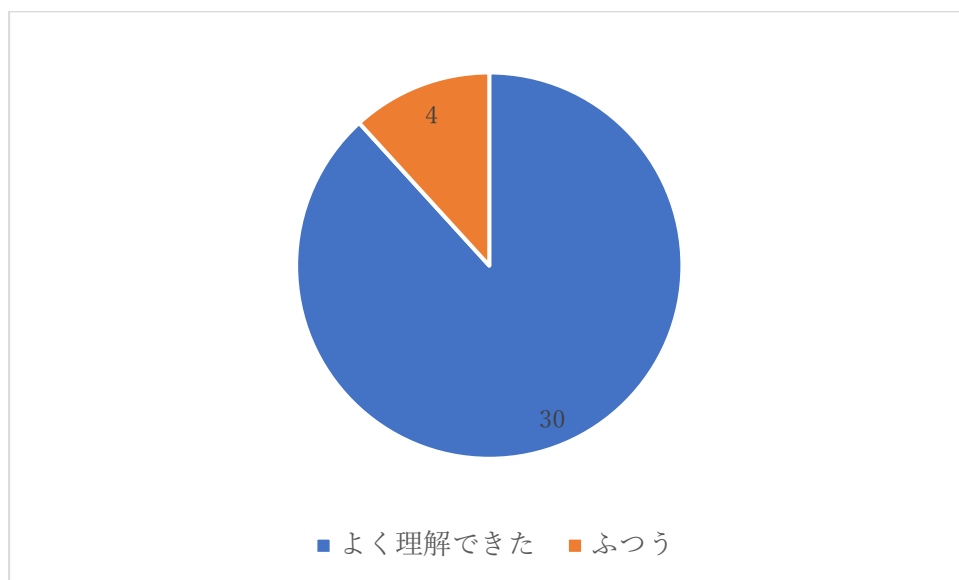
- カメラの利用が有益で、動き方のコツがよく理解できたとの意見。

8. 参加できなかった場合への要望

- 参加できなかった場合でも後で見返せるような動画や映像があると嬉しいとの提案。

これらの意見から、実際の患者さんの動作やリアルな状況での実演が、参加者にとって非常に有益であったことがうかがえます。これにより、リハビリテーションの効果や方法に対する理解が深まり、患者さんやその周囲の方々にとっても参考になったようです。

体験後の質疑応答や、講師を交えた参加者の意見交換の内容はいかがでしたか？



体験後の質疑応答や、講師を交えた参加者の意見交換のご感想をお聞かせください。

1. 講師の分かりやすさ

- 田宮先生と木下さんの回答が分かりやすかったとの好意的な意見。
- マスクの使用が一部聞き取りにくさを引き起こしたとの指摘。

2. 新たな気づきと学び

- 悩みや意見を共有することで新たな気づきがあり、これからの慈善的な活動に役立つとの期待。
- リハビリの必要性や患者が発信する当事者力の重要性について痛感。

3. リハビリテーション施設と連携の必要性

- リハビリテーション施設の雰囲気が理解でき、医療と介護の連携の重要性が明確になった。
- 医療分野の改善やリハビリテーションの普及に期待が寄せられた。

4. 感動的なエピソード

- リハビリを受ける患者さんが足が動くのに歩けないことへの感動や共感の声。

2023年11月26日（日）オンライン公開講座

「あなたを支えます がんリハビリテーション ～いっしょに動いてみましょう！～」

- 杖を使用する患者がリハビリによって改善できれば嬉しいとの期待。
5. **患者同士のコミュニケーションの重要性**
 - 患者同士の体験後の感想を共有できるコーナーがあれば理解が進むとの提案。
 - 質疑応答の場で患者同士の話し合いがあれば良いとの期待。
 6. **意見交換の濃密さ**
 - 意見交換がディスカッションのようであり、深い内容に参加者が感じたとの感想。
 - 参加者がもっと聞きたいと感じるほどの充実したディスカッション。
 7. **医療体制への疑問と期待**
 - リハビリテーションの現状に対する疑問や改善への期待。
 - 保険医療や制度の改善に対する期待や提案。
 8. **外来での受けられる制度への要望**
 - 外来でのリハビリテーションが難しいとの問題点と、その改善を望む声。
 - QOL向上と同時に外来でのリハビリ受け入れが期待される。

これらの意見から、講師と参加者との交流が非常に有益で、リハビリテーションの必要性や現状に対する理解が深まったことが分かります。同時に、外来でのリハビリ受け入れや医療体制の改善に対する期待が高まっています。

今後、NPO 法人がんと共に生きる会の公開講座や勉強会で取上げてほしい内容、その他ご希望やお気づきの点があれば、ご記入ください。

1. ガンリハビリテーションの取り組みを追ってほしいという希望。
2. ストレスや心理的な課題への対応についての情報を得たいという意見。
3. 在宅でのリハビリの情報や、オンラインセミナーの開催を望む声。
4. 新しい治療法や最新の治験、薬に関する情報の提供を希望。
5. 患者、家族、遺族のメンタルケアについての情報やディスカッションを望む声。
6. AI や IT の活用に関する情報や取り組みを知りたいという意見。
7. お金に関する勉強会や、医療にかかる費用についての情報を希望。
8. がん患者と家族が自宅でできるリハビリ方法についての情報を望む声。